

令和4年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案とりまとめシート

1 基本情報

政策	政策6 “才徳兼備”の人づくり		
政策の柱	6-1 「文・武・芸」三道鼎立の学びの場づくり		
議論した施策	(1) 「知性」・「感性」を磨く学びの場づくり (3) 魅力ある学校作りの推進		
実施日／班名	9月10日(土) 第2班	担当部局名	教育委員会 教育政策課ほか

2 コーディネーター取りまとめコメント（コーディネーターが議論を総括して取りまとめ）

<p>大きく、4つの課題が挙げられた。</p> <p>第一に、<u>教職員の負担軽減^①</u>が課題となっている。不足する人員を把握し、外部人材の登用や、ICTの効果的な活用を進めるべきである。</p> <p>第二に、<u>教育現場におけるICT活用について、教員のスキルアップ^②</u>が必要である。また、<u>各校の成功事例共有^③</u>のための仕組みづくりが必要である。</p> <p>第三に、きめ細やかな指導と指導内容の質の向上に向けた、<u>35人学級や小学校における教科担任制の推進^④</u>が必要である。</p> <p>第四に、<u>小中高の連携^⑤</u>による、教職員同士の情報や課題の共有の場の創出が必要である。</p> <p>また、施策の内容がかなり多く感じられた。集中と選択が必要である。</p>
--

3 施策改善案（県民評価者が記載した改善提案シートの取りまとめ）

- ①教育現場の状況や課題を把握するとともに、積極的な外部人材の登用やデジタル技術の活用による業務の効率化などにより、教職員の負担軽減を図る必要がある。
- ②加速度的に進んだ教育現場におけるICTの活用においては、指導する教職員のスキルアップに加え、積極的な専門人材活用による教職員のサポートが必要である。
- ③教育現場でICTをさらに有効活用できるよう、各校の成功事例を共有し、授業内容がより充実したものとなるよう、工夫する必要がある。
- ④教職員が児童・生徒ひとりひとりと向き合い、きめ細やかな指導と指導内容の質の向上のため、小学校の教科担任制を進めていく必要がある。
- ⑤小中高の教職員が地域内で連携し、教育現場における課題等の情報共有を行う必要がある。また、中学入学後に感じる授業内容のギャップを小さくする必要がある。